

# ポルノグラフィの使用・暴露と青少年の性的問題行動との関連

高岸 幸弘・池上 駿\*

## Association between pornography use/exposure and adolescent problematic sexual behaviors

Yukihiro Takagishi, Shun Ikegami

(Received October 1, 2023)

Recently, public concern has been growing about the use of Internet-based pornography by youths and its potential effects. Internet pornography, due to its triple A characteristics (accessibility, anonymity, affordability), raises concerns about its negative effects. However, there is no clear consensus on the relationship between pornography use and problematic sexual behaviors among youths. Therefore, this study provides an overview of existing research exploring the current understanding of the relationship between youths' problematic sexual behaviors and their pornography use. In addition, it examines potential therapeutic and educational interventions to address youths' problematic sexual behaviors. Despite the study findings not establishing a causal relationship between youths' problematic sexual behaviors and their pornography use, valuable insight is provided in understanding individual cases. The study emphasizes the importance of a healthy home environment, family relationships, and peer relationships to the well-being of youths.

**Key words :** pornography, sexually explicit content, internet, problematic sexual behavior, adolescent

### I. 問題

社会に存在するあらゆる事象および事物について、それが肯定的であるか否かの判断は単純ではない。一般に社会に有害なものとして認知されているものであっても、ひとたび心理社会的な側面を考慮すると、観察者には多様な視点が示され、良い・悪いのどちらかに落とし込むことは困難となる。例えば、タバコは一般的に健康に「悪い」と認識されているものである。しかしタバコの健康への害悪を最も承知している公衆衛生学の専門家である Rothman (2021) は、DV 被害者のシェルターでの経験を通して、過去の恐怖というストレスを抱えたシェルターで暮らす女性たちは、タバコを吸うことによってストレスの緩和効果を得ていたことを指摘している。事実、研究では、少量のニコチンには抗うつ効果があることも明らかとなっている (Hughes, 2008)。

インターネットを中心としたアダルトコンテンツやポルノグラフィ（以下ポルノグラフィ）の利用も同様

に考察することが可能である。ポルノグラフィは一般的に好ましいものとして話題に上がることは多くないが、Hald (2006) は、ポルノグラフィの使用が、睡眠状況の改善をはじめとして、人間関係や種々の心理的健康の改善に役立つことを明らかにしている。女性に焦点を当てた研究でも、非現実的な身体的特徴を描いたポルノ画像はネガティブなボディイメージにつながる可能性はあるものの、現実的なポルノ画像を閲覧することはより良いボディイメージにつながる事が示唆されている (Vogels, 2018)。

しかしながら、ポルノグラフィへの意図的なアクセスから意図しない暴露まで、近年では身近なものになっており、その影響は社会的な注目を集めている (Peter & Valkenburg, 2016)。Cooper (1998) は、この状況をトリプル A エンジン（アクセス可能性；accessibility、匿名性；anonymity、手頃な価格性；affordability）と呼び、ポルノグラフィのネガティブな影響を警告している。Young et al. (2000) はそれをさらに展開し、ACE モデル（A: Anonymity; 匿名性, C: Convenience; 利便性, E: Escape; 現実逃避性）を提

\* 熊本大学大学院社会文化科学教育部

唱し、問題となる種々の性行動の説明を試みている。つまり、一部の研究にポルノグラフィの肯定的な影響を報告しているものがあったとしても、それらが総体として良いものとして捉えてよいものか慎重な判断が求められるのである。青少年においては発達への影響が懸念されることから、対策を講じるにあたっては適切な理解が必要である。

ただ、適切な理解と実践の基礎にとって不可欠となるポルノグラフィの影響に関する研究は、科学的エビデンスに基づいた共通認識がないのが実情である。もちろん、科学的エビデンスを踏まえずとも、性の知識をインターネットなどのポルノグラフィから学ぶことは危険だという主張もできようが (Trostle, 2003)、社会にはポルノグラフィがあふれているという事実、そして、一つのものと単純に良い・悪いの判断がつけにくいことを踏まえると、ポルノグラフィの影響を理解した上での対策を検討することが必要ではなかろうか。このことは、青年の性的問題行動への治療介入においては密接にかかわってくる。今日の認知行動療法を主体とした性的問題行動への治療介入は、リスクとなる要素を特定し、それらを統制することが大きな柱となるからである (Stinson, 2017)。

そこで本稿では、ポルノグラフィの使用や暴露とその影響について、これまで報告されてきた研究を概観し、ポルノグラフィの影響に関する現在の共通認識を検討する。まず、80年代から盛んに議論されてきた、成人の性犯罪の発生とポルノグラフィの使用や暴露の研究を概観し、それを踏まえた上で、社会的な懸念の大きい、青年のポルノグラフィの使用や暴露と性的問題行動の関連についてこれまでの研究を概観する。青年のポルノグラフィの消費と性的問題行動の関連性を探求することにより、青年の性的問題行動への治療教育的介入の焦点化、洗練化といった進展が期待される。

## II. ポルノグラフィの使用と性犯罪・性的問題行動との関連

Weaver (1993) は、ポルノグラフィの使用や暴露の研究を概観し、ポルノグラフィの使用とその影響を議論する際に、次の3つの理論的立場があることを述べている。

- a) 罪悪感や性的欲求と言った抑圧された感情の表現や解放につながるため、これらの感情が解消される。つまり、ポルノグラフィが入手しやすくなると性犯罪の発生率は低下する (Kutchinsky, 1991) というもの。
- b) ポルノグラフィは非人間化・人間性の剥奪 (dehumanization) であり、何よりもまず女性蔑視

であると主張するもの。

- c) 現実にそぐわないイメージによる脱感作に注目するもの。言い換えるとポルノグラフィは非現実的な性的シーンを繰り返すため、ポルノグラフィを使用することは暴露される刺激が強くなるにつれ、その人の価値観や行動を徐々に変化させ鈍感にさせていくと考えるもの (Bushman, 2005)。

ポルノグラフィの使用と性犯罪との関連の研究報告をみると、これらの理論的視点がどこにあるか理解しておくことは重要である。というのも、後述するように、ポルノグラフィは純粋に客観視して議論することの難しい側面をもった、政治的、あるいは感情的な議論になりがちだからである。

### 1. 成人性犯罪者とポルノグラフィの使用

成人の性犯罪者が、それ以外の集団よりもポルノグラフィの使用が多いことは複数の研究で報告されている (Christensen, 1994; Demare, et al., 1993; Kimmel & Linders, 1996; Lalumiere, et al., 1996; Rettinger, 2000)。このことは性犯罪とポルノグラフィの使用の関連をイメージさせる。事実、性犯罪者の53%が性暴力を振るう前にポルノグラフィを閲覧していたことが報告されている (Marshall, 2012)。また、被害者が未成年の性犯罪の場合、性犯罪者の10～25%が、事前の計画段階においてポルノグラフィが確実に影響していたという報告もある (Proulx, Perreault, & Ouimet, 1999)。Langevin & Curnoe (2004) は、性犯罪者586名を対象に調査を行い、そのうち96名 (17%) が、性暴力を振るう前にポルノグラフィを閲覧するだけでなく、それを使って自慰行為をしていたことを明らかにしている。さらに、インターネットの接続の普及によるポルノグラフィの使用の増大とともに、性犯罪が増加したという報告もある (Bhuller et al., 2013)。

一方で、それらの研究によって説明できるポルノグラフィの使用や暴露と性犯罪の因果関係はまだない。Ferguson & Hartley (2009) は概ね2000年までのポルノグラフィの使用と性的暴力性に及ぼす影響に関する研究をレビューし、因果関係はおろか、両者の相関も明確ではないことを明らかにしている。逆に、一部の研究で提唱されている、ポルノグラフィの代替効果 (Substitution Effect) の可能性も示唆している。つまり、外に向かい害悪な行為の原動となる性的暴力性を、ポルノグラフィによって消化する効果があると述べたわけである。

その後 Mellor & Duff (2019) は研究の質の評価ツールとして用いられる、症例対照研究のための Critical Appraisal Skills Programme (CASP, 2018) を使用し、個々の研究の質を確認しながら、システマティックレ

ビューを行っている。その結果、Mellor らも、Ferguson ら（2009）のものと同様、ポルノグラフィの使用と性犯罪の関連は認められないと結論付けている。ましてやその因果関係は明確にはされていない。

近年ではポルノグラフィの使用と性犯罪に関するメタアナリシスも発表されている。Ferguson & Hartley (2022) はポルノグラフィの使用と性犯罪に関する研究 59 本を用いてメタアナリシスを行い、両者の因果関係は研究データでは確認できなかったもののほか、性的問題行動の定義や測定方法などを始めとした、この領域の各研究の質の問題も大きいことを指摘している。各研究の質が劣化してしまう原因の一つとして、学術的というよりも政治的あるいは感情的なストーリーによる影響があることを強調している。このことは、性的問題行動という人のさまざまな感情を惹起するテーマを扱うに際し、研究だけでなく、介入支援の場においても、繰り返し強調されてきたことである（朝比奈, 2017）。

これらの研究から見てくることは、個々の性犯罪者をみると、ポルノグラフィを使用する者もいればしない者も多くいること、つまり性犯罪者というだけでポルノグラフィの観点から見た集団の等質性は必ずしも担保されないということが明確になる。そして、一般的に認知されがちな、性犯罪は性的欲求によって引き起こされるというステレオタイプが間違っていることを何より証明していることになる。性犯罪はポルノグラフィの刺激が直接的に影響するというよりも、個々の積み重ねられた過去の経験によって説明できる部分の方がはるかに大きい。イメージに象徴される攻撃性を補う行動や妄想のパターンが明確になり、矮小化された性暴力の表現の影響を受け、その結果としての犯罪行為が問題なのである（Fong, De La Garza, & Newton, 2005）。

性犯罪のステレオタイプとして議論がある話題の一つに小児性愛者（pedophilia）がある。小児を対象とした性犯罪者のポルノグラフィの使用も、これまでの研究報告からは、一般的にイメージされがちなものとは異なることが多いようである。例えば Langevin et al. (1988) は、児童に対して性犯罪を行った 97 名のカナダ人を対象に児童ポルノの使用の有無を調査した。その結果、児童ポルノを使用したことがある者の割合は、対照群として設定した児童以外に対して性犯罪を行った者と比べ、有意に低かったことを報告している。また、性犯罪者のポルノグラフィの使用が一般人口と比べても有意差がないという報告もあるため、ポルノグラフィの使用と成人の性犯罪との関連は、あまり安易に関連付けないようにしなければならない（Becker & Stein, 1991; Kutchinsky, 1991）。

Ferguson et al. (2022) のメタアナリシスでも言及されているが、ポルノグラフィは形態がさまざまであり、研究ではこの点を統制しにくいことが、本テーマを検証していくうえでの困難さの一つである。またそれ以外にも、サンプリング戦略や測定方法など研究手法の課題は多い（Bensimon, 2007）。しかしながら、多くのポルノグラフィは、性犯罪者や性的問題行動を抱える青年に共通する 3 つの特徴である「性暴力行為を合理化する傾向」、「性暴力行為の影響の最小化」、「否認を含むその他多くの歪んだ認知」が表現されがちなものである（Wyre, 1993）。また、インターネット上のポルノグラフィの接触が多いほど、その情報を真実だと認識する傾向が高くなることも分かっている（Peter, & Valkenburg, 2006a）。これらの点を踏まえると、人格形成過程にある青年らのポルノグラフィの使用とその影響は、成人のそれにはないインパクトを持つ可能性もある（Ward, 2003）。次に、青年のポルノグラフィの使用や暴露と性的問題行動との関連について概観する。

## 2. 青年の性的問題行動とポルノグラフィの使用

青年のポルノグラフィの使用はインターネット利用の普及に伴って議論が増えてきた。インターネット上のポルノグラフィへの接触が多いほど青年の性的行動は活発になることもその一因であろう（Bleakley et al., 2008）。NSPCC（2023）は 4 ～ 17% の子どもと青年が（ただのポルノではなく）違法なポルノ画像等を目にしていると結論付けている。また、ポルノグラフィの接触と性的行動増加のメカニズムは、ポルノグラフィへの接触が、友人らの規範的圧力と関連し、それを媒介して性行動につながるということも明らかにされている（Bleasley et al., 2011）。つまり、ポルノグラフィを閲覧し、性的な事柄を友人らと話題にして共有すると、そこに同世代の集団規範や規範的圧力が生じ、性行為をすることが是となる感覚が生じるためだとされている。友人関係がとりわけ重要な青年期ならではの行動メカニズムであるといえる。

日本ではどうか。インターネットが普及する以前の日本のポルノグラフィの状況を報告した Diamond & Uchiyama (1999) は、性描写のある雑誌や動画などが急速に増え、いちいちこのように規制が進んだ時代（その後容認的状況になっていったが）には、ポルノグラフィと青年の性的問題行動の関連は見出せなかったことを確認している。また、ポルノグラフィの悪影響として懸念されるもののひとつは性的問題行動の増大だけでなく、コンテンツの誤った理解、例えばセックスの価値観や女性観などであるが、Diamond らはこれらの関連も、2000 年以前のデータでは明確



に示されていないと述べている。しかしながら、一方で、ポルノグラフィが性的暴力に対する態度や、それに関連する性犯罪ではないが害悪となる行動へ及ぼす影響の可能性は警鐘を鳴らしている (Diamond & Uchiyama, 1999)。そこで次に、青年のポルノグラフィの使用・暴露と性的問題行動について、主にインターネットを介したものに注目した研究を概観する。

インターネットの利用状況は国ごとに異なる様相がある。日本では、2020 年の内閣府の調査で、就学前の子どもでも 64.0% がインターネットを利用していることを明らかにしており、9 歳までには 87.2% の子どもが利用しているという。この状況は欧米でもあまり違いはないようであるが、アフリカの途上国などでは幾分異なる状況もある。例えば 413 人を対象にしたナイジェリアで行われた調査では、15～19 歳でインターネットを利用したことの有る青年は半数にも満たない (Arulogun, Ogbu, & Dipeolu, 2016)。しかしながらそのようなインターネット利用率であっても、意図しないポルノグラフィの暴露は 72% 以上が経験しており、その後の影響としては (多くは問題性のない) 性行動 (例えばパートナーとの性交が増大するなど) が活性化されることが分かっている。ところで、総務省による 6,500 人の児童生徒を対象とした調査によれば、スマートフォンの使用を開始する時期について、中学入学までに到達する児童生徒は約 80% であり、自身のスマートフォンを所有する割合は中学卒業までにほぼ 90% に達することが示されている。つまり、日本では青年だけでなく、児童の多くも意図しない性情報への暴露や使用を経験していることが推察される。

ポルノグラフィは意図的な使用と非意図的な暴露を区別して検討したものはそれほど多くない。一般的には、ポルノグラフィは意図して使用するよりも、意図せず暴露される方が多い (Boonmann, Grudzinskas, & Aebi, 2014)。青年期は、セクシュアリティを積極的に探索する時期である。それゆえ、非意図的なポルノグラフィの暴露は、青年の行動規範や社会規範、身体イメージ、性行為への期待に、潜在的に有害な影響を与える可能性がある (Holloway, et al., 2014)。Lewis et al. (2018) は、14 歳から 18 歳の青年らに対しフォーカスグループを 11 回実施し (最終的な参加者は 68 名)、青年らのポルノグラフィの暴露、特に SNS を通じた意図しない露骨なポルノグラフィはもはや不可避免であり、制限したり禁止したりするよりも、適切な教育や情報提供をすることが、暴露の影響を和らげることにつながりうることを述べている。事実、意図しない性的に露骨なウェブサイト (sexually explicit websites; SEWs) への暴露は、コンドームを使用しな

い性交の経験を増大させることが分かっており、こういったリスクな性的行動は、他者を傷つける性的行動ともなりうるだろう (Smith et al., 2016)。リスクな性的行動とポルノグラフィの暴露は、暴露直接の関連だけでなく、性的行動の開始年齢が早まることとも関連しており、それを媒介して間接的にもリスクな性的行動へとつながることが分かっている (O'Hara et al., 2012)。ポルノグラフィの意図せぬ暴露がこういった外在化問題と関連していることが示されている一方で、ポルノグラフィの意図的な使用はうつ症状など内在化問題と関連していることも報告されている (Wolak, Mitchell, & Finkelhor, 2007)。これは次節で詳述する、青年の性的問題行動への治療教育や支援介入においては一つの視点となるだろう。

性的問題行動に関与した青年 (Juvenile Sexual Offender; JSO) のポルノグラフィの使用は、一般の青年と比べ目立って多いわけではない。Boonmann et al. (2014) の報告によると、幼少期にポルノグラフィに触れていた JSO は約 30% で、青年期にポルノグラフィに触れていたのは 65% である。これは一般の青年よりも、むしろやや少ない数値である。ただ、頻度をみると、非 JSO よりも JSO はより頻繁にポルノグラフィに触れているようである。これだけをもってポルノグラフィの使用が JSO の特徴とは言えないし、社会的な認識として持たれがちなポルノグラフィの使用と性的問題行動との関係はほとんど明らかにできることはない。ただ、Boonmann et al. の報告の中でも興味深いものの一つは、ポルノグラフィの内容にも焦点を当てていることである。彼らの報告によると、JSO のうち 12% が暴力的なものなど逸脱的な内容のポルノグラフィを好んで使用しているとのことである。Boonmann et al. はポルノグラフィ、特にインターネットにおけるそれはコントロールが難しいため、これまで触れていた媒体のポルノグラフィよりも逸脱的で暴力的なコンテンツが含まれる可能性が高くなる。この側面が性暴力を含む性的な事からへの態度に影響し、将来的に性的問題行動や性犯罪へとつながるパスとなる可能性があると Boonmann et al. は述べている。

ポルノグラフィとそれが性的攻撃性に及ぼす研究は複数ある。Allen, D'Alessio, & Emmers-Sommer (2000) によると、ポルノグラフィは、潜在的あるいは現に性的に攻撃的な青年にとって強力な学習経験となり、性的攻撃性へとつながるといえる。しかしながら、この仮説の検証を試みた Burton, Leibowitz, & Howard (2010) は、283 名の性的問題行動を抱える青年と 170 名の非性的問題行動を抱える非行少年 (対照群) を対象に調査を行い、ポルノグラフィと性的攻撃性に関連する種々の特徴 (性加害を開始した年齢、被害者の数、サ

ディズムへの興奮、レイプ願望、サイコパシー傾向)との比較を行ったが、性的問題行動青年群、非性的問題行動青年群のどちらにおいても、各変数との相関は見出せなかった。それゆえ、ポルノグラフィと性的攻撃性との関連は見出せないと結論している。ただ、性的問題行動を抱える青年は、そうでない非行少年に比べ、年少の時期(10歳以前)にポルノグラフィに接触している割合が高く、閲覧等接触頻度も高いことも明らかとなった。この点を踏まえると、性的問題行動を抱える青年は、低年齢時からポルノグラフィに接触できる望ましくない環境に育った可能性が示唆される。

性的問題行動を抱える青年の生育環境に注目し、Burton et al. (2011)はポルノグラフィの使用の多いJSOの特徴について検証し、彼らは性的問題行動を抱える青年の55%が幼いころからの性的被虐待歴を有していること、性加害の前後にポルノグラフィを閲覧すること、さらにその閲覧時間は性加害の計画をする時間よりも長いことを明らかにしている。幼いころからの性的被虐待歴により性加害を始めた年齢が早くなることも分かり、それゆえ、性的問題行動を抱える期間も長く、被害者数も増えてしまう現象があることを述べている。また、性的被虐待歴のあるポルノグラフィの使用の多い性的問題行動を抱える青年は、数多くの性的刺激に対して対照群(性的被虐待歴がなくポルノグラフィの使用も少ない)よりも有意に高い性的興奮を報告していた。

Schimmenti et al. (2014)は、不適切なインターネットの使用について注目している。不適切なインターネットの使用にはポルノグラフィも含まれるが、ポルノグラフィに限らず、不適切なインターネットの使用は、どのような青年が行っているのかを検証した。その結果、不適切なインターネットの使用は、幼少期に身体的・性的虐待を受けた経験があること、不安定型(アンビバレント、回避)のアタッチメントに起因する人間関係へのこだわりによって予測されることが明らかとなった。青年の性的問題行動の発現は、アタッチメントだけで説明できるものではないものの、その発生に重要な役割を果たしうるのは研究者間である程度一致した見解である(Rich, 2005)。

以上概観した研究を踏まえると、ポルノグラフィの使用と青年の性的問題行動は、因果関係でも、単純な相関関係でもなく、年少児からポルノグラフィに接触できる保護者の監督の不足した生活環境や、保護者の監督の不足ゆえの性虐待被害体験がその背景にあるように思われる。次にその可能性も念頭に置いたうえで、青年の性的問題行動の治療教育を考える際の、ポルノグラフィの扱いについて考察する。

### Ⅲ. 青年の性的問題行動に対する治療教育への示唆

性的問題行動を抱える青年の全体的な構造として、ポルノグラフィの使用と性的問題行動との関連が証明されていないとしても、その懸念は特定の国や地域に限定されることなく、世界的な傾向としてあることは事実である。例えばポルノグラフィの使用と青年の性的問題行動との関連を取り上げた近年の研究に限っても、オランダ(Peter & Valkenburg, 2006b)、中国(Fu et al., 2010)、台湾(Lo & Wei, 2005)、韓国(Sun et al., 2015)、ナイジェリア(Okafor, Elijah, & Andrew, 2015)、米国(Sussman, 2007)、英国(Gillespie, 2008)など世界各国で検証研究が行われている。

個々のケースをみたときに、ポルノグラフィの使用が性的問題行動の発生に直接的・密接にかかわっていることもある(高岸, 2022)。これはWright, Tokunaga, & Kraus (2016)のメタアナリシスで明らかになった点が理解のヒントになるのではないだろうか。Wright et al.は、家族関係が脆弱な青年の場合には、ポルノグラフィの使用と性的攻撃的行動との間に正の相関があることを見出している。そして、逆に家族の支援や友人の存在といった要因が、ポルノグラフィと性的攻撃行動との関係の緩衝要因となっていることを報告している。青年期という発達段階を考えると、彼らを取り巻く環境によっては、ポルノグラフィの使用とその後の性的問題行動との結びつきを強くも弱くもするのである。言い換えると、保護要因が問題発生の理解だけでなく、性的問題行動発現の防止にもつながりうると言えよう。事実、複数の研究で友人からの感情的、道具的ソーシャルサポートは、性的攻撃行動だけでなくその他非行行動全般の緩和要因としての役割を果たすことが分かっている(Borowsky, Hogan, & Ireland, 1997; Scarpa, & Haden, 2006)。

一方で友人は青年にとって性的攻撃行動の促進要因になる可能性があることにも留意しなければならない(Cairns, 1988)。仲間からの悪影響は同調圧力だけでなく、レイプ神話を信じる傾向が強くなったり(Wei, Lo, & Wu, 2010)、女性をモノ化(objectification)したり、性的対象としてのみ認識するようになったりする(Peter, & Valkenburg, 2006b)ものも含まれる。Allen et al. (1996)はポルノグラフィの影響について論じた約1500本の論文から、その影響を最小化する試みについて論じられたものをレビューし、性に関する心理教育的かかわりが有効であることを示している。仲間からの悪影響についても、心理教育的かかわりは重要となるだろうが、それが奏功するためには、得た知識を生活の中で範化することが必要であり、そ

のためには良好な家族関係や友人関係があることが望ましいだろう。

青年の性的問題行動の防止において、重要な側面の一つとなるのは保護者の監督である（高岸・池上・西村，2021）。Byrne et al. (2014) の研究により示唆されているように、保護者はしばしば自分の子どものインターネット利用におけるリスクを過小評価している。具体的には、意図せずにポルノグラフィにさらされる可能性や、それが引き起こすポルノグラフィの利用、加害行為または被害についてのリスクである。彼らの研究では、456組の親子を対象とした調査を通じて、寛容な子育てスタイル、オンラインリスクに関するコミュニケーションの難しさ、プライベートなコンピュータスペースへのアクセスなど、家庭環境の要因が、子どもがオンラインで遭遇し経験するリスクを保護者が過小評価する要因であることが明らかにしている。心理教育は青年本人だけでなく、保護者に対するそれも重要な取り組みとなるだろう。

#### IV. 結語

青年のポルノグラフィの暴露・使用と性的問題行動は単純な因果関係は確認されていない。問題の本質は、ポルノグラフィの暴露や使用につながりうる、良くない生活環境である可能性や、それを改善するための家族関係、仲間関係の見直し、そのための心理教育の重要性であることが確認された。

#### 引用文献

- Allen, M., D'Alessio, D., & Emmers-Sommer, T. M. (2000). Reactions of criminal sexual offenders to pornography: A meta-analytic summary. *Communication Yearbook*, 22, 139-169.
- Allen, M., D'Alessio, D., Emmers, T. M., & Gebhardt, L. (1996). The role of educational briefings in mitigating effects of experimental exposure to violent sexually explicit material: A meta-analysis. *Journal of Sex Research*, 33 (2), 135-141.
- Arulogun, O. S., Ogbu, I. A., & Dipeolu, I. O. (2016). Influence of internet exposure on sexual behaviour of young persons in an urban district of Southwest Nigeria. *The Pan African Medical Journal*, 25.
- 朝比奈牧子 (2017). 性犯罪者と心理療法. 門本泉・嶋田洋徳[編著]. 性犯罪者への治療的・教育的アプローチ (pp. 11-24). 金剛出版.
- Becker, J. V., & Stein, R. M. (1991). Is sexual erotica associated with sexual deviance in adolescent males?. *International Journal of Law and Psychiatry*, 14, 85-95.
- Bensimon, P. (2007). The role of pornography in sexual offending. *Sexual Addiction & Compulsivity*, 14 (2), 95-117.
- Bhuller, M., Havnes, T., Leuven, E., & Mogstad, M. (2013). Broadband internet: An information superhighway to sex crime?. *Review of Economic studies*, 80 (4), 1237-1266.
- Bleakley, A., Hennessy, M., Fishbein, M., & Jordan, A. (2011). Using the integrative model to explain how exposure to sexual media content influences adolescent sexual behavior. *Health Education & Behavior*, 38 (5), 530-540.
- Bleakley, A., Hennessy, M., Fishbein, M., & Jordan, A. (2008). It works both ways: The relationship between exposure to sexual content in the media and adolescent sexual behavior. *Media psychology*, 11 (4), 443-461.
- Boonmann, C., Grudzinskas Jr, A. J., & Aebi, M. (2014). Juveniles, the Internet, and sexual offending. In F. M. Saleh, A. Grudzinskas, Jr., A. Judge (Eds.), *Adolescent sexual behavior in the digital age* (pp. 161-179). New York: Oxford University Press
- Borowsky, I. W., Hogan, M., & Ireland, M. (1997). Adolescent sexual aggression: Risk and protective factors. *Pediatrics*, 100 (6), 1-8.
- Burton, D. L., Duty, K. J., & Leibowitz, G. S. (2011). Differences between sexually victimized and nonsexually victimized male adolescent sexual abusers: Developmental antecedents and behavioral comparisons. *Journal of Child Sexual Abuse*, 20 (1), 77-93.
- Burton, D. L., Leibowitz, G. S., & Howard, A. (2010). Comparison by crime type of juvenile delinquents on pornography exposure: The absence of relationships between exposure to pornography and sexual offense characteristics. *Journal of Forensic Nursing*, 6 (3), 121-129.
- Bushman, B. J. (2005). Violence and sex in television programs do not sell products in advertisements. *Psychological science*, 16 (9), 702-708.
- Cairns, R. B., Cairns, B. D., Neckerman, H. J., Gest, S. D., & Gariepy, J. L. (1988). Social networks and aggressive behavior: Peer support or peer rejection? *Developmental Psychology*, 24 (6), 815-823.
- Christensen, F. M. (1994). The alleged link between pornography and violence. J. J. Krivacska, J. Money. (Eds.). *The handbook of forensic sexology: Biomedical and criminological perspective*. 422-448. New York: Prometheus Books.
- Critical Appraisal Skills Programme (2018). casp (case control study) checklist. Available at: <https://casp-uk.net/wp-content/uploads/2018/03/CASP-Case-Control-Study-Checklist-Download.pdf>.
- Cooper, A. (1998). Sexuality and the internet: Surfing into the new millennium. *Cyberpsychology & Behavior*, 1 (2), 187-193.
- Demaré, D., Lips, H. M., & Briere, J. (1993). Sexually



- violent pornography, anti-women attitudes, and sexual aggression: A structural equation model. *Journal of Research in Personality*, 27 (3), 285-300.
- Diamond, O.M., & Uchiyama, A. (1999). Pornography, rape, and sex crimes in Japan. *International Journal of Law and Psychiatry*, 22 (1), 1-22.
- Ferguson, C. J., & Hartley, R. D. (2009). The pleasure is momentary... the expense damnable?: The influence of pornography on rape and sexual assault. *Aggression and violent behavior*, 14 (5), 323-329.
- Ferguson, C. J., & Hartley, R. D. (2022). Pornography and sexual aggression: Can meta-analysis find a link?. *Trauma, Violence, & Abuse*, 23 (1), 278-287.
- Fong, T. W., De La Garza, R., & Newton, T. F. (2005). A case report of topiramate in the treatment of nonparaphilic sexual addiction. *Journal of clinical psychopharmacology*, 25 (5), 512-514.
- Fu, K.-W., Chan, W. S. C., Wong, P. W. C., & Yip, P. S. F. (2010). Internet addiction: Prevalence, discriminant validity and correlates among adolescents in Hong Kong. *British Journal of Psychiatry*, 196, 486-492.
- Gillespie, A. A. (2008). Adolescents accessing indecent images of children. *Journal of Sexual Aggression*, 14 (2), 111-122.
- Hald, G. M. (2006). Gender differences in pornography consumption among young heterosexual Danish adults. *Archives of sexual behavior*, 35, 577-585.
- Holloway, I. W., Dunlap, S., Del Pino, H. E., Hermanstyn, K., Pulsipher, C., & Landovitz, R. J. (2014). Online social networking, sexual risk and protective behaviors: Considerations for clinicians and researchers. *Current addiction reports*, 1, 220-228.
- Hughes, J. R. (2008). Smoking and suicide: a brief overview. *Drug and alcohol dependence*, 98 (3), 169-178.
- Kimmel, M. S., & Linders, A. (1996). Does censorship make a difference? An aggregate empirical analysis of pornography and rape. *Journal of Psychology & Human Sexuality*, 8 (3), 1-20.
- Kutchinsky, B. (1991). Pornography and rape: Theory and practice?: Evidence from crime data in four countries where pornography is easily available. *International Journal of Law and Psychiatry*, 14, 47-64.
- Lalumière, M. L., Chalmers, L. J., Quinsey, V. L., & Seto, M. C. (1996). A test of the mate deprivation hypothesis of sexual coercion. *Ethology and Sociobiology*, 17 (5), 299-318.
- Langevin, R., & Curnoe, S. (2004). The use of pornography during the commission of sexual offenses. *International Journal of Offender Therapy and Comparative Criminology*, 48 (5), 572-586.
- Langevin, R., Lang, R. A., Wright, P., Handy, L., Frenzel, R. R., & Black, E. L. (1988). Pornography and sexual offences. *Annals of sex research*, 1, 335-362.
- Lewis, R. (2018). Literature review on children and young people demonstrating technology-assisted harmful sexual behavior. *Aggression and Violent Behavior*, 40, 1-11.
- Lo, V. H., & Wei, R. (2005). Exposure to internet pornography and Taiwanese adolescents' sexual attitudes and behavior. *Journal of Broadcasting & Electronic Media*, 49 (2), 221-237.
- Marshall, W. L. (2012). Pornography and sex offenders. In *Pornography* (pp. 185-214). Routledge: UK.
- Mellor, E., & Duff, S. (2019). The use of pornography and the relationship between pornography exposure and sexual offending in males: A systematic review. *Aggression and violent behavior*, 46, 116-126.
- NSPCC (2023) Online porn. Available at: <https://www.nspcc.org.uk/keeping-children-safe/online-safety/inappropriate-explicit-content/online-porn/> (accessed 18 September 2023).
- O'Hara, R. E., Gibbons, F. X., Gerrard, M., Li, Z., & Sargent, J. D. (2012). Greater exposure to sexual content in popular movies predicts earlier sexual debut and increased sexual risk taking. *Psychological Science*, 23 (9), 984-993.
- Okafor, C., Elijah, E., & Andrew, A. (2015). An evaluation of the correlation between internet pornography and the sexual behavior of Nigerian undergraduates. *Communication Panorana African and Global Perspectives*, 1 (1), 1-14.
- Peter, J., & Valkenburg, P. M. (2016). Adolescents and pornography: A review of 20 years of research. *The Journal of Sex Research*, 53, 509-531.
- Peter, J., & Valkenburg, P. M. (2006a). Adolescents' exposure to sexually explicit online material and recreational attitudes toward sex. *Journal of communication*, 56 (4), 639-660.
- Peter, J., & Valkenburg, P. M. (2006b). Adolescents' exposure to sexually explicit material on the Internet. *Communication Research*, 33 (2), 178-204.
- Proulx, J., Perreault, C., & Ouimet, M. (1999). Pathways in the offending process of extrafamilial sexual child molesters. *Sexual Abuse: A Journal of Research and Treatment*, 11, 117-129.
- Rettinger, L. J. (2000). The relationship between child pornography and the commission of sexual offences against children: A review of the literature. Canada: Department of Justice.
- Rich, P. (2005). *Attachment and sexual offending: Understanding and applying attachment theory to the treatment of juvenile sexual offenders*. UK: John Wiley & Sons.
- Rothman, E. F. (2021). Pornography and public health (pp. 209-220). Oxford: Oxford University Press.
- Scarpa, A., & Haden, S. C. (2006). Community violence victimization and aggressive behavior: The moderating effects of coping and social support. *Aggressive*

- Behavior*, 32 (5), 502-515.
- Schimmenti, A., Passanisi, A., Gervasi, A. M., Manzella, S., & Famà, F. I. (2014). Insecure attachment attitudes in the onset of problematic Internet use among late adolescents. *Child Psychiatry & Human Development*, 45, 588-595.
- Smith, L. W., Liu, B., Degenhardt, L., Richters, J., Patton, G., Wand, H., Cross, D. F., Hocking, J. S. G., Skinner, S. R. H., Cooper, S. I., Lumby, C. A. J., Kaldor, J. M., & Guy, R. (2016). Is sexual content in new media linked to sexual risk behaviour in young people? A systematic review and meta-analysis. *Sexual Health*, 13 (6), 501-515.
- Stinson, J. D. (2017). Motivators, Self-Regulation and Sexual Offending. In T. A. Gannon & T. Ward (Eds.), *Sexual Offending: Cognition, Emotion and Motivation* (pp. 89-107). John Wiley & Sons Ltd: UK.
- Sun, C., Miezan, E., Lee, N. Y., & Shim, J. W. (2015). Korean men's pornography use, their interest in extreme pornography, and dyadic sexual relationships. *International Journal of Sexual Health*, 27 (1), 16-35.
- Sussman, S. (2007). Sexual addiction among teens: A review. *Sexual Addiction & Compulsivity*, 14 (4), 257-278.
- 高岸幸弘 (2022). きょうだい間性虐待を行った青年に対する治療介入プロセス～親への感情の整理に焦点化した取り組み～. 福祉心理学研究, 19, 55-64.
- 高岸幸弘, 池上駿, & 西村岳人. (2021). 青年の性的問題行動と保護者のモニタリング. 熊本大学教育学部紀要, 70, 163-171.
- Trostle, L. C. (2003). Overrating pornography as a source of sex information for university students: Additional consistent findings. *Psychological reports*, 92 (1), 143-150.
- Vogels, E. A. (2019). Loving oneself: The associations among sexually explicit media, body image, and perceived realism. *The Journal of Sex Research*, 56, 778-790.
- Ward, L. (2003). Understanding the role of entertainment media in the sexual socialization of American youth: A review of empirical research. *Developmental Review*, 23, 347-388.
- Weaver, J. (1992). The social science and psychological research evidence: Perceptual and behavioral consequences of exposure to pornography. In C. Itzin. (Ed.), *Pornography: Women, violence and civil liberties* (pp. 284-310). New York: Oxford University Press
- Wei, R., Lo, V. H., & Wu, H. (2010). Internet Pornography and Teen Sexual Attitudes and Behavior. *China Media Research*, 6 (3), 66-75.
- Wolak, J., Mitchell, K., & Finkelhor, D. (2007). Unwanted and wanted exposure to online pornography in a national sample of youth Internet users. *Pediatrics*, 119 (2), 247-257.
- Wright, P. J., Tokunaga, R. S., & Kraus, A. (2016). A meta-analysis of pornography consumption and actual acts of sexual aggression in general population studies. *Journal of Communication*, 66 (1), 183-205.
- Wyre, R. (1992). Pornography and sexual violence: Working with sex offenders. Itzin, C. (Ed.). *Pornography: women, violence and civil liberties* (pp. 236-247). Oxford: Oxford University Press.
- Young, K. S., Griffin-Shelley, E., Cooper, A., O'Mara, J., & Buchanan, J. (2000). Online infidelity: A new dimension in couple relationships with implications for evaluation and treatment. *Sexual Addiction & Compulsivity*, 7, 59-74.